

結果の見方と慶應義塾診療所の御案内

- A 基準範囲を外れる所見はありません。
- B 軽度、基準範囲を外れる、または記載の所見があります。
必要に応じて面接、再検査、生活習慣指導を受けてください。
- C 基準範囲を外れる、または記載の所見があります。
面接、再検査、生活習慣指導、治療を要します。

各判定は、あくまでも目安です。判定に関わらず、自覚症状がある方、経過観察中・治療中の疾患がある方は、主治医または保健管理センターにご相談ください。

計測(身長・体重・腹囲)

BMIは $[体重(kg)/\{身長(m)\}^2]$ で求められる体格指数で、標準は男女とも22.0です。18.5未満はやせと判定されます。25.0以上は肥満と判定され、生活習慣病のハイリスク群です。食事や運動に注意し、定期的に家庭でも体重測定をしましょう。急激な体重増加または減少がある場合は、早めに医療機関を受診してください。

また、内臓脂肪の蓄積による肥満は、高血圧・糖尿病・脂質異常症や動脈硬化などの原因となります。腹囲が男性で85cm以上、女性で90cm以上の場合は、内臓脂肪型肥満と診断しメタボリックシンドロームの可能性があります(裏面参照)。

視力

急激な視力低下や目のかすみ、まぶしさ、飛蚊症、光視症、視野異常(欠損、黒点出現、ゆがみ)、目の痛み、頭痛、などの自覚症状がある場合は、早めに医療機関(眼科)を受診してください。眼科系諸疾患の早期段階では視力低下を伴わないこともあります。裸眼視力0.7未満の場合は眼科や眼鏡店での視力矯正をお勧めします。

聴力

1000Hz=低音域、4000Hz=高音域です。初めて聴力低下を指摘された場合や、以前より聴力低下の程度が悪化し日常生活に支障がある場合は、耳鼻科受診をお勧めします。

血圧、脈拍

2回測定した場合は2回目の値を記載します。140/90mmHg以上は高血圧で、脳卒中、心血管疾患のリスクを高めるので内科受診をお勧めします。特定健康診査では130/85mmHg以上をリスクとしています。また、脈拍の数が1分間に60回未満の場合を「徐脈」、1分間に100回を超える場合を「頻脈」といいます。不整脈、甲状腺疾患などの指標になります。

検尿(蛋白・潜血・糖)

尿蛋白や尿潜血が陽性の場合は腎・泌尿器系疾患を、尿糖が陽性の場合は糖尿病の可能性があります。尿蛋白、尿潜血が(1+)以上の方は、再検査が必要です。尿の再提出用の容器を同封いたしますので、指定の日時に再検査を受けてください。あるいは、むくむ、微熱がある、排尿痛があるなど自覚症状がある場合は、内科受診をお勧めします。

内科(他覚所見)

問診・視診から必要と判断された場合には、診察を行います。所見により専門の医師との面接、精密検査、経過観察等の指示があります。

診療、健康相談のご案内

各地区診療所では、診療および健康相談を行っております。

診療日時、医師の専門は事前にご確認ください。

* ホームページ <http://www.hcc.keio.ac.jp/> でも確認できます。

また、診療時間以外でも、健康診断結果についてのご質問には保健師が対応いたします。



◎ 医師の専門は…

腎・高血圧／武田、安達
心臓／牧野

糖尿病・代謝／広瀬、後藤

呼吸器・禁煙／森、西村、加治

消化器／横山、石渡